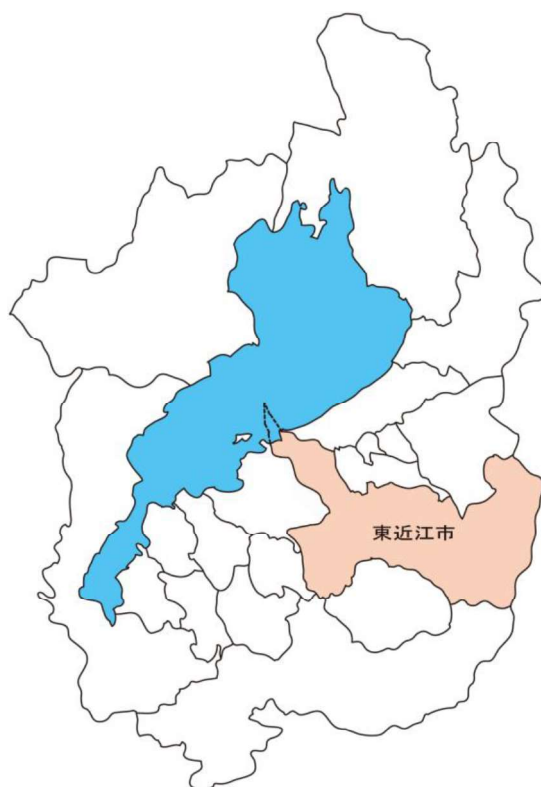


# 第1章 市の概要



東近江市は、平成 17 年 2 月 11 日に八日市市・永源寺町・五個荘町・愛東町・湖東町が合併して誕生し、その後、平成 18 年 1 月 1 日に能登川町・蒲生町と合併し、現在の東近江市が誕生しました。

本市は、滋賀県の南東部に位置し、京阪神と中京都市圏との間にあります。

地形は東西に細長く、鈴鹿山系のふもとに向かい豊かな自然に恵まれたなだらかな丘陵地が広がっています。鈴鹿山系に源を発する愛知川が市内を琵琶湖まで流れ、日野川とともにその流域に肥沃な大地を育み、美しい田園風景を形成しています。

市の面積は 388.58 km<sup>2</sup>(琵琶湖含む)で県の総面積の 9.7%を占めていますが、地目別に見ると、森林が 56%、農地が 23%となっており、宅地は 6%となっています。(※平成 26 年 10 月から、市の面積は 388.37 km<sup>2</sup>になっています。国土地理院「全国都道府県市区長別面積調」)

道路網については、名神高速道路八日市インターチェンジや蒲生スマートインターチェンジをはじめ、国道 8 号、国道 307 号、国道 421 号、国道 477 号などが広域幹線網を形成しています。

公共交通については、鉄道では近江鉄道が地域の中心部を通過しており、八日市駅と近江八幡駅の間を約 15 分、貴生川、米原駅との間をそれぞれ 35 分で結んでいます。

また、JR 琵琶湖線の能登川駅を有しており、京阪神への通勤・通学圏となっています。バスは路線バスやコミュニティバスが運行されています。

中世以降は、交通の要衝の地であったことから、市場町や門前として栄えました。近世には近江商人の活躍が見られるなど、様々な地域との交流を通して数多くの伝統や、独自の地域文化を育んできました。

昭和 40 年代以降は、名神八日市インターチェンジや周辺工業団地を中心に IT 関連工場をはじめ、電器・住宅などの多様な企業進出があり、今日では内陸型の工業都市としての性格も有するようになりました。

このような中、豊かな個性と積み重ねられてきた地域の歴史文化を活用し、「みんなで作る うるおいとにぎわいのまち」を合言葉に、市民と行政の協働による豊かなまちづくりを進めています。